OWNER'S MANUAL

DIGITAL HOME THEATER SPEAKER SYSTEM

CineMate® series II
CineMate® GS series II

取扱説明書

この度はボーズ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。本機を正しくお使いいただくため、ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みください。また、必要なときにすぐご覧になれるように大切に保管しておくことをおすすめいたします。

※説明の便宜上、イラストは実物と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、下記の「留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示について

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

△記号は警告･注意を促す内容があることを告げるものです。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです
（左図の場合は分解禁止を意味します）。

●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。

●異常が発生したとき

⚠ 警告

変なにおいや音がしたときは、すぐに電源プラグを抜く
そのままの状態で使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して、販売店に修理をご依頼ください。

内部に水や異物が入ったときは、すぐに電源プラグを抜く
そのままの状態で使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に点検をご依頼ください。特にお子様がいるご家庭ではご注意ください。

落としたり、キャビネットを破損したときは、すぐに電源プラグを抜く
そのままの状態で使用すると、火災や感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に点検をご依頼ください。

AC ケーブルや電源プラグが傷んだ場合は交換する
ACケーブルや電源プラグが傷んだ状態（芯線の露出、断線、変形など）で使用すると、火災や感電の原因となります。販売店に交換をご依頼ください。

●設置、保管するとき

⚠ 警告

本機の上や周囲に、小さな金属物を置かない
通風孔などから内部に落下した場合、火災や感電の原因となります。

AC ケーブルは付属の専用品を使用する
専用 AC ケーブル以外の使用は、火災や感電の原因となります。また、本機の専用 AC ケーブルを他の機器に使うこともお止めください。

電源プラグは、抜き易い位置にあるコンセントに接続する
万一の事故や故障に備えるために、電源プラグはよく見えて容易に手が届く位置にあるコンセントに接続してください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む
差し込みが不完全な場合、発熱による感電や火災の原因となります。また、ほこりがたまり易くなったり、プラグの金属部分に触れる危険性があります。

不安定な場所に置かない
ぐらついた台の上や傾いた所、振動する所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがや事故の原因となります。

AC ケーブルを傷付けない
AC ケーブルを傷付けたり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、加熱したり、上に重い物を乗せたりしないでください。ケーブルが破損して、火災や感電の原因となります。特に、電源プラグ部分やケーブルが本体から出ている部分はお気を付けください。

●設置、保管するとき

⚠ 警告

タコ足配線をしない
コンセントや配線器具に同時に多数の機器を接続して電源を取ると、コードなどが過熱し、火災の原因となります。

火災や感電の危険性を低減するために、機器を雨や湿気にさらさない

水の近くまたは湿度の高い場所で使用しない
機器内部に水が入った場合、火災や感電の原因となります。

機器内部に水をたらしたりかけたり、花びんのように水を満たしたものをそばに置かない
他の電気製品と同様に、機器内部に水分をこぼしたりしないでください。故障や火災の原因となります。

風呂、シャワー室など、水のかかる恐れのある場所には置かない
機器内部に水が入った場合、火災や感電の原因となります。

交流 100 ボルトの電源を使用する
海外などで、表示された電源電圧（交流 100 ボルト）以外で使用すると、火災や感電の原因となります。

通風孔をふさがない
布をかぶせたり、じゅうたんや布団の上に置いたり、通気が不十分な狭いスペースに押し込んだりしないでください。本体内部に熱がこもり、火災の原因となります。

梱包袋は安全な場所に保管する
製品を梱包していた袋は、お子様の手の届かない安全な場所に保管してください。窒息などの事故の原因となります。

スピーカーに対応した専用金具を使用
スピーカー取付けに金具を使用される場合は、スピーカーに対応した専用金具をご使用ください。対応外の金具や他社製の金具を使用すると、スピーカーの落下や破損の恐れがあります。

⚠ 注意

高温の場所に置かない
窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所、熱源のそばなど、温度が異常に高くなる場所に機器を設置・保管しないでください。過熱や部品の変形などにより、火災や感電の原因となることがあります。

ほこり、油煙、湯気、湿気、高温の場所に置かない
火災や感電の原因となることがあります。

スピーカーコードを傷付けない
スピーカーコードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、加熱したり、上に重い物を乗せたりしないでください。コードが破損して、火災や故障の原因となることがあります。

●設置、保管するとき

⚠ 注意

注意

ゴムやビニール製品に本体を長期間接触させない
外装が変質し跡が残ることがあります。

必ず実行

移動させる場合は、AC ケーブルその他の接続線を外す
AC ケーブルに無理な力が加わって傷付き、火災や感電の原因となることがあります。また他の接続線が引っかかり、けがの原因となることがあります。

引っ張り禁止

電源プラグを抜くときは、AC ケーブルを引っ張らない
AC ケーブルが傷付き、火災や感電の原因となることがあります。必ず電源プラグを持って抜いてください。

必ず実行

スピーカーコードは安全な所を這わせる
スピーカーコードを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。

●使用するとき

⚠ 警告

火気禁止

機器のそばに、ろうそく等の火がついているものを置かない
引火して火災の原因となります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない
感電の原因となります。

分解禁止

本体のカバーを外したり、分解や改造をしない
火災や感電、けがの原因となります。内部の点検や修理は、販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら、本体やケーブル類に触れない
感電の原因となります。

必ず実行

小さな部品は幼児の手の届かないところに置く
誤飲や窒息などの危険がありますので、小さなお子様の手の届かない所に保管してください。

⚠ 注意

音を小さく

電源を入れる前には音量を最小にする
突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

手を入れない

スピーカー開口部に手を入れない
けがの原因となることがあります。特にお子様がいるご家庭ではご注意ください。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない
スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

大音量で長時間続けて聞かない
大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンのご使用時にはご注意ください。

電源プラグを抜く

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く
本機は電源を切った状態でも、常に微弱な電流が流れています。長期間使用しないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜く

お手入れのときは電源プラグを抜く
安全のため、お手入れは電源プラグを抜いてから行ってください。感電の原因となることがあります。

●使用するとき

⚠ 注意

必ず実行

定期的に内部の掃除をする
5 年に一度程度を目安に、機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま長時間掃除をしないと、火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店などにご相談ください。

必ず実行

電源プラグやコンセント部の掃除をする
電源プラグを差してあるコンセント部にほこりがたまると、火災の原因となることがあります。定期的にコンセント部の掃除をしてください。

●電池使用時

⚠ 警告

注意

電池内部から漏れ出た液（電解液）には直接ふれない
・ 液が目に入ったときは、失明など障害のおそれがありますので、こすらずに水道水などの多量のきれいな水で十分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。
・ 液が皮膚や衣服に付着した場合には、皮膚に障害を起こすおそれがありますので、すぐに多量の水道水などのきれいな水で洗い流してください。
・液を舐めた場合には、すぐにうがいをして医師に相談してください。

禁止

指定された種類以外の電池は使用しない
発熱や破裂、液漏れにより、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。

禁止

電池を加熱、火の中に入れるなどしない
過度に温度が上がった場合、および火中投入した場合には、電池の内圧が高まり、破裂により、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。

分解禁止

電池を分解しない
無理に電池を分解しようとすると、手指を傷つけたり、電池内部の電解液が飛び散って衣服を損傷したり、皮膚のただれや化学やけどを起こすばかりでなく、目に入った場合には、失明するおそれがあります。

禁止

電池のプラス+とマイナス−をショートさせない
ショート（短絡）させると電池は激しく発熱し、液漏れ、破裂により、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。ショート（短絡）事故防止のためコイン、ネックレス、ガムの包装紙などの金属と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。また、アルミホイル、ガムの包装紙などで電池を包まないでください。

禁止

乾電池は充電しない
破裂や液漏れにより、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。

禁止

電池端子に直接はんだ付けをしない
電池を加熱することになり、温度上昇によって使用している樹脂部品の変形を生じ、液漏れ、内部ショートなどの異常を生じ発熱、液漏れ、破裂により、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。

●電池使用時

⚠ 注意

混在禁止

種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

混用すると液漏れ、破裂により、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。未使用の電池と使用済み、または、使いかけの電池を混ぜて使うと、早く消耗した電池が過度の放電状態（過放電）となり、不経済なばかりではなく液漏れ、破裂の原因となります。

禁止

投げつけたりして強い衝撃を与えない

電池を変形させないでください。電池を落下させて変形させたり、無理な力を加えて変形させると、電池封口部のゆがみによって液漏れ、内部ショートなどの異常を生じ発熱、液漏れ、破裂により、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。

必ず実行

使い切った電池はすぐに機器から取り出す

過放電させると液漏れ、破裂により、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。

水ぬれ禁止

電池は濡らさない

水や海水、ジュースなどの液体で電池を濡らすとさびたり、ショートする原因となります。ショートすると液漏れ、破裂により、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。

⚠ 注意

禁止

外装チューブをはがさない

電池の外装チューブをはがしたり、キズをつけないこと。電池がショート状態となり易く、電池が液もれ、発熱、破裂する原因となります。

必ず実行

長い間使用しない時は、電池を機器から取り出す

スイッチを切っていても機器の中の電池は電気が少しずつ減っていきます。液もれの原因にもなりますので長期間使用しない場合は電池を取り出しておいてください（非常用を除く）。

必ず実行

極性表示 (プラス+とマイナス－) に従って正しく入れる

電池のプラス+とマイナス－を逆に接続すると、充電されたり、機器によっては電池がショート（短絡）状態になり発熱、液漏れ、破裂により、火災やけが、あるいは周囲の汚損の原因となります。

必ず実行

電池は乳幼児の手の届かないところに置く

誤って飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

必ず実行

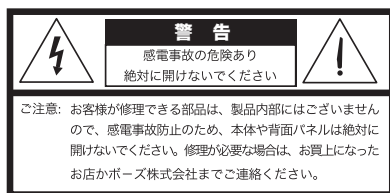
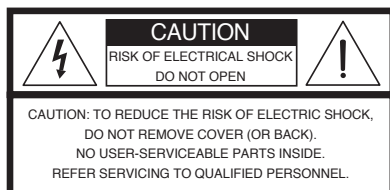
正しく処分する

乾電池は一般の不燃ごみとして処理してよいことになっていますが、自治体の条例などの定めがある場合には、その条例に従って廃棄してください。端子部に他の電池が接続すると、電池が充電または、過放電され、破裂や発火することがあります。廃棄時には端子部にセロファンテープなどを貼り付けて絶縁してください。

CAUTION
RISK OF ELECTRICAL SHOCK
DO NOT OPEN

CAUTION: TO REDUCE THE RISK OF ELECTRIC SHOCK,
DO NOT REMOVE COVER (OR BACK).
NO USER-SERVICEABLE PARTS INSIDE.
REFER SERVICING TO QUALIFIED PERSONNEL.

警　告
感電事故の危険あり
絶対に開けないでください

ご注意:　お客様が修理できる部品は、製品内部にはございませんので、感電事故防止のため、本体や背面パネルは絶対に開けないでください。修理が必要な場合は、お買上になったお店かボーズ株式会社までご連絡ください。

製品に左のような安全に関する表示があります。表示内容は左下の日本語をご参照ください。

正三角形に矢印付き稲妻マークが入った表示は、製品内部に電圧の高い危険な部分があり、感電の原因となる可能性があることをお客様に警告するものです。

正三角形に感嘆符が入った表示は、製品本体にも表示されている通り、この取扱説明書の中で、取り扱い上およびメンテナンス上、重要な項目であることをお客様に警告するものです。

本製品は、EMC 指令 2004/108/EC および Low Voltage Directive（LVD）2006/95/EC に準拠しています。
適合申請書は <www.bose.com/static/compliance/index.html.> にてご参照いただけます。

Contents

Introduction

ご使用の前に

CineMate® system は、さらに向上した音響性能とシンプルな操作性を兼ね備え、高画質テレビの楽しさを存分に引き出すBose® ホームシアタースピーカーシステムです。お使いのテレビとケーブル１本で接続でき、映画や音楽、スポーツの音声を迫力あるサラウンドで再生いたします。

CineMate® system の特長

■前方 2 本のスピーカーだけで本格的なサラウンドを実現

前方に設置した 2 本のスピーカーだけで豊かなサラウンド音場を再現する、ボーズの独自技術「TrueSpace® surround digital processing circuitry」を搭載。背後や前方中央へスピーカーを設置することなく、リアルで広がり感のある本格的なホームシアターの醍醐味をお楽しみいただけます。

■シンプルな接続でシステム構築が可能

テレビとの接続は、テレビ音声出力を CineMate® system のインターフェースモジュールにつなぐだけで完了。現在テレビに接続されている DVD レコーダーなどの周辺機器を、改めて接続し直す必要はありません。

■シンプルリモコンで簡単操作（CineMate® series II）

CineMate® series II には、本体の操作に必要なボタンのみを配置したシンプルな「4 ボタンリモコン」が同梱されています。

■多機能リモコンで周辺機器を一括操作（CineMate® GS series II）

CineMate® GS series II には、本体のほかテレビや周辺機器の操作を一括して行える「ユニバーサルリモコン」が同梱されています。

■力強い重低音をバランスよく再生するアクースティマスモジュール

ボーズ独自の低音再生技術を搭載した「アクースティマスモジュール」により、まるで映画館の特等席にいるようなクリアで迫力ある重低音をご体験いただけます。また、「Bass コントロールつまみ」により、低音のレベルをお好みの量に調節することが可能です。

■エレガントなデザインのジェムストーンスピーカーアレイ（CineMate® GS series II）

小型でエレガントなデザインのジェムストーンスピーカーアレイを、お好みのテレビラックと自由に組み合わせ、お部屋の雰囲気に合ったシアターシステムを作り上げることができます。

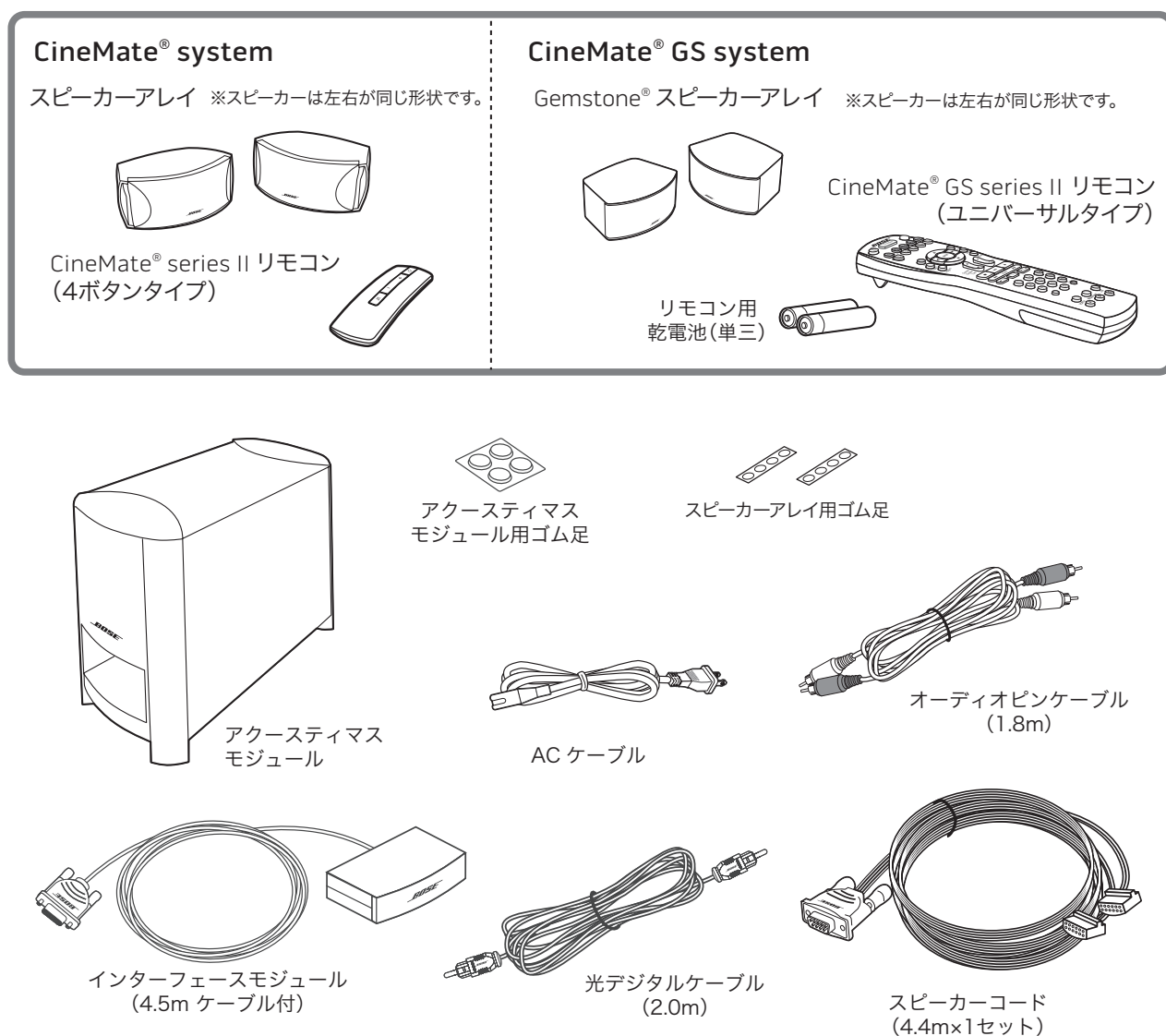
♪: CineMate® systemが扱えるデジタル音声信号はAAC、LPCMとAC-3ドルビーデジタルのビットストリーム信号です。DTS音声のデジタルビットストリーム信号は再生できません。市販のDTS音声対応ソフトには必ずAC-3ドルビーデジタルまたはLPCMによる録音もあわせてされています。このようなソースの場合はお使いのDVDプレーヤー等の取扱説明書を参照して、デジタル出力をAC-3ドルビーデジタルやLPCMに切り替えてください。AC-3ドルビーデジタル、LPCM、アナログ音声信号のいずれを選んでもCineMate® systemに内蔵されたボーズ独自の技術により5.1chのサラウンド再生をお楽しみいただけます。

内容物の確認

箱や梱包材は、後日修理やメンテナンス等が必要になった場合のために保管しておくことをおすすめします。

もし、開梱時に損傷などが発見された場合や内容物が不足しているときは、そのままの状態を保ち、ただちにお買い上げになった販売店までご連絡ください。そのままでのご使用はおやめください。

図1

内容物

製品のゴム足について

⚠ 注意

- ゴム足は素材の性質から、設置面の塗料によっては、移行または汚染を示す可能性があります。事前にご確認のうえご使用ください。
- 付属のゴム足は高摩擦性を有している分、塗装面との接触面に密着しやすい性質を持っております。接触面の一部を剥がしてしまう可能性も有りますので、事前にご確認のうえご使用ください。

設置方法

下記のガイドラインに従ってスピーカーアレイとインターフェースモジュールの置き場所を選んでください。

♪: ここに示した設置のガイドラインは製品の性能を最大限に生かすためのものですが、これを参考にご自分の好みやお部屋の状況に応じてより良い設置場所を探していただいてもかまいません。

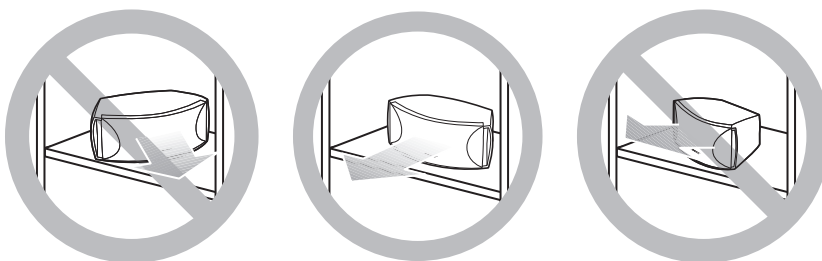
このシステムで電源コンセントに接続するのはアクースティマスモジュールだけです。2 本のスピーカーアレイとインターフェースモジュールは電源コンセントに接続しません。機器の設置時はアクースティマスモジュールから電源コンセントまでの距離をご確認ください。

スピーカーアレイの設置

よい環境にスピーカーを設置できれば製品の性能を最大限に生かした、音響特性やサラウンド感を堪能できます。

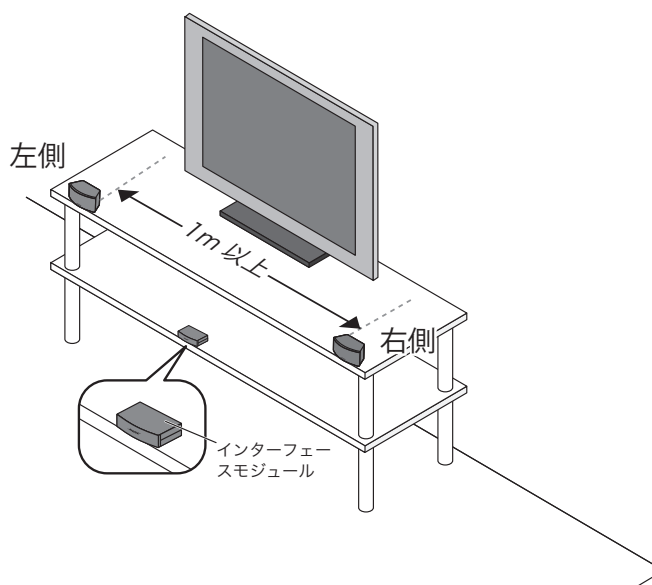
・スピーカーアレイは必ず正面を向けて設置してください。内側に向けたり、外側に向けたりしない方がより良い結果が得られます。

図2

スピーカーアレイの設置

・書棚やテレビラックなどの上に置く場合は、必ずスピーカーアレイを棚の前面部に設置してください。

♪: 書棚の奥の方に設置してしまうと、サラウンド感などが損なわれてしまう原因になります。

図3

インターフェースモジュールの設置

⚠ 警告

スピーカーを設置する部分がガラスや磨き込んだ板、つるつる滑るような材質のものの上である場合、スピーカーが音を出したときの振動などで滑って落下する恐れがあります。このような場所に設置する場合は必ず付属のゴム足を使用して、落下しないように安全に設置してください。

・スピーカーアレイをテレビの上や画面の側面に設置する場合は、左右の間隔が等距離になるように設置します。

♪: スピーカーアレイはブラウン管式のテレビの近くに設置しても画面に影響が出ないような防磁型になっています。

・スピーカーアレイ同士の距離は少なくとも 1m 離してください。ただし、映像と音声とがバラバラになり過ぎないように、画面の縁からは 1m 以内に設置するようにしてください。しかし、この距離はあくまでも目安ですので、部屋の条件や個人的好みによって一番最適なところをお探しいただけます。

・左右のスピーカーアレイは、同じ高さになるように設置してください。
このスピーカーアレイは、底面が必ず下になるように設置するように設計されています。また、その向きで使用できるようなテーブルスタンド、フロアースタンドも別売りでご用意しています。

設置場所が決定したらスピーカーアレイ用ゴム足をスピーカーアレイの底面の 4 スミに取り付けてください。

図4

スピーカーアレイを設置するときの向き

♪: 上下を逆にしたり、縦にして使用すると、本製品のサラウンド効果が著しく低下します。必ず水平に上下左右を正しく設置するようにしてください。

インターフェースモジュールの設置

インターフェースモジュールには、リモコンの受光部と音声入力端子があります。

・テレビや他の音源機器の近くで、平らな場所に設置してください。

・アクースティマスモジュールからインターフェースモジュールのケーブルの届く範囲(4.5m 以内)に設置してください。

・インターフェースモジュールに直射日光や強い照明が当たらないようにしてください。

・インターフェースモジュールを書棚やテレビラックなどの上に置く場合は、必ず棚の最前部に設置してください。

・書棚の高い位置に置く場合は、インターフェースモジュールの前面部分をわずかだけ棚の最前部より手前にはみ出させるようにして、棚にリモコンからの信号を妨げられないようにしてください。

♪: リモコンで機器を操作する場合、リモコンとインターフェースモジュール、テレビ、その他の機器のリモコンの受光部との間に障害物が無いようにしてください。

⚠ 注意：インターフェースモジュールを設置するときは、テレビやその他の機器の放熱孔をインターフェースモジュールで塞がないようにしてください。故障や火災の原因となることがあります。

アクースティマスモジュールの設置

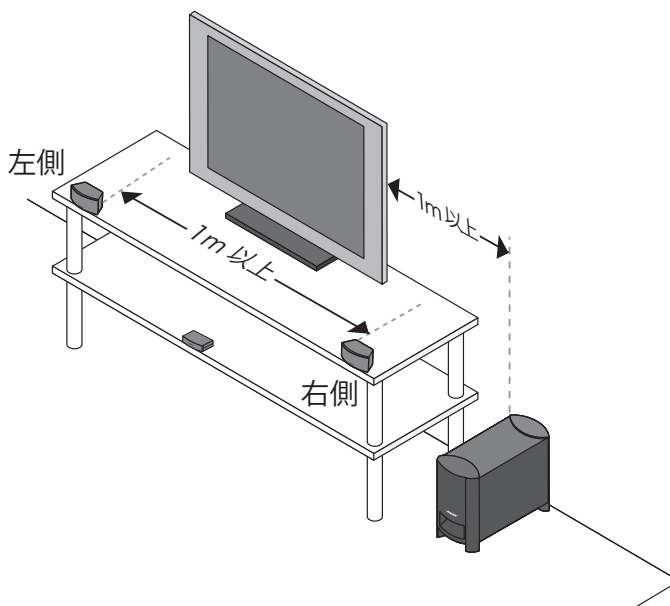
次のことを確認して設置してください

・AC コンセントまで付属の AC ケーブルが届く距離にあること。

・設置しようとする場所が、テレビやスピーカーが設置してあるのと同じ側であること。

・アクースティマスモジュールは非防磁のスピーカーなので、ブラウン管を使用しているテレビの場合は、画面に影響を与えないように少なくとも 1m は離すこと(機種とブラウン管のサイズによって異なります)。

図5

アクースティマスモジュールとテレビの間は 1m 以上空けます

⚠ 注意：アクースティマスモジュールは防磁処理がされていません。そのため、ビデオテープ、カセットテープ、その他磁気による記録媒体を直接あるいは近接した場所に保管すると内容が消えたり、再生できなくなる場合があります。

設置場所が決定したらアクースティマスモジュール用ゴム足をアクースティマスモジュールの 4 スミの足の中央部分のくぼみに取り付けてください。

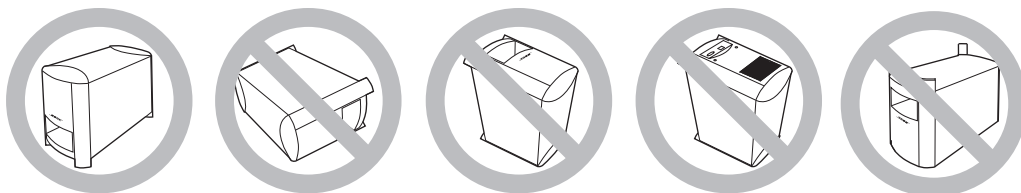
ポートと換気開口部をふさがないようにしてください。

・アクースティマスモジュールは、テーブルの下や、ソファーの陰などに設置してもかまいません。その際、家具やカーテンがアクースティマスモジュール底面と背面の換気開口部をふさがないように十分お気をつけください。

・アクースティマスモジュールは、ポート(前面開口部)がふさがることを防ぎ、効率良く低音エネルギーが得られるように、ポートを部屋に向けるか、または壁に沿うように置きます。

・ アクースティマスモジュールは底面が下になるように設置します。

図6

アクースティマスモジュールを設置するときの向き

⚠ 警告：
・横倒し、天地逆に設置してはいけません。
・アクースティマスモジュールの底面と背面の換気開口部からの空気で内部の機器の冷却を行っていますので、決して換気開口部をふさがないようにしてください。火災の原因になります。

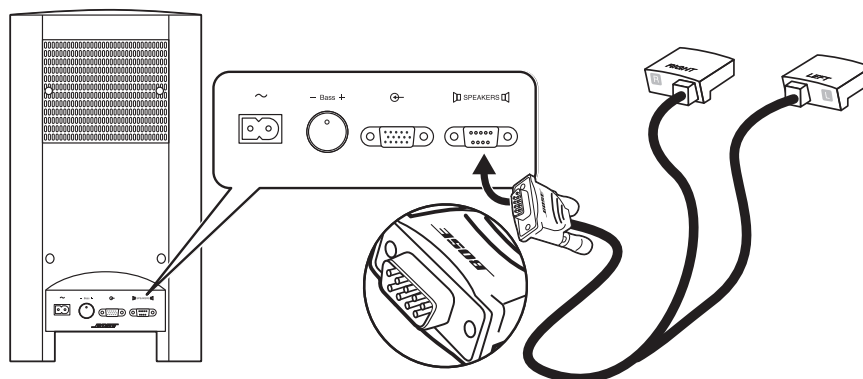
接続について

接続の手順

1. アクースティマスモジュール背面の SPEAKERS と書かれているコネクターにスピーカーコードの2本のネジが付いているプラグを差し込みます。プラグの両脇についているネジをしっかり締めてください。

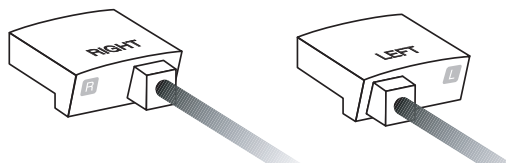
♪: プラグを固定するときにこのネジを締めると、接触不良などのトラブルを防ぐ事ができます。このプラグはしっかり差し込んでも、通常若干の隙間が生じます。また、ネジを締める時にドライバー（ネジ回し）を使うと破損する場合がありますので、必ず手で締めるようにしてください。このプラグは手で締める力で十分固定できるようになっています。ネジをゆるめる場合はドライバー（ネジ回し）を使用してもかまいません。

図7

スピーカーコードの接続

2. スピーカーコードの反対側は、2個のスピーカーの間隔に応じて、引き裂いてください。

3. LEFTと書かれているコネクターは、視聴する場所から向かって左側に置くスピーカーに接続します。同様にRIGHTと書かれているコネクターは、右側に置くスピーカーに接続します。

図8

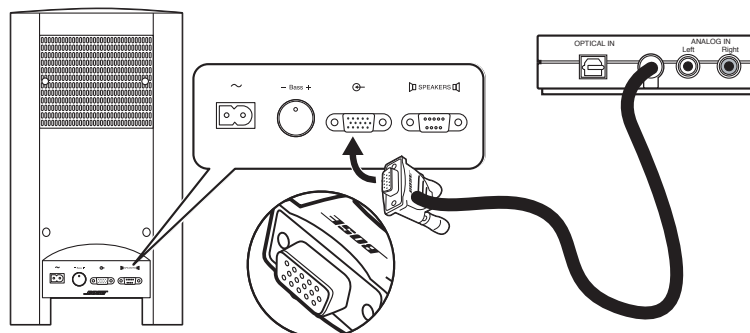
スピーカーの左右に注意

♪ 注意：CineMate® systemは、その独自のサラウンド再生方法により音の左右を間違えると全く効果が得られなくなります。くれぐれも右に設置されたスピーカーアレイには右用のスピーカーコードを、左に設置されたスピーカーアレイには左用のスピーカーコードを接続してください。

4. アクースティマスモジュール背面の のマークのついているコネクターにインターフェースモジュールの2本のネジが付いているプラグを差し込みます。

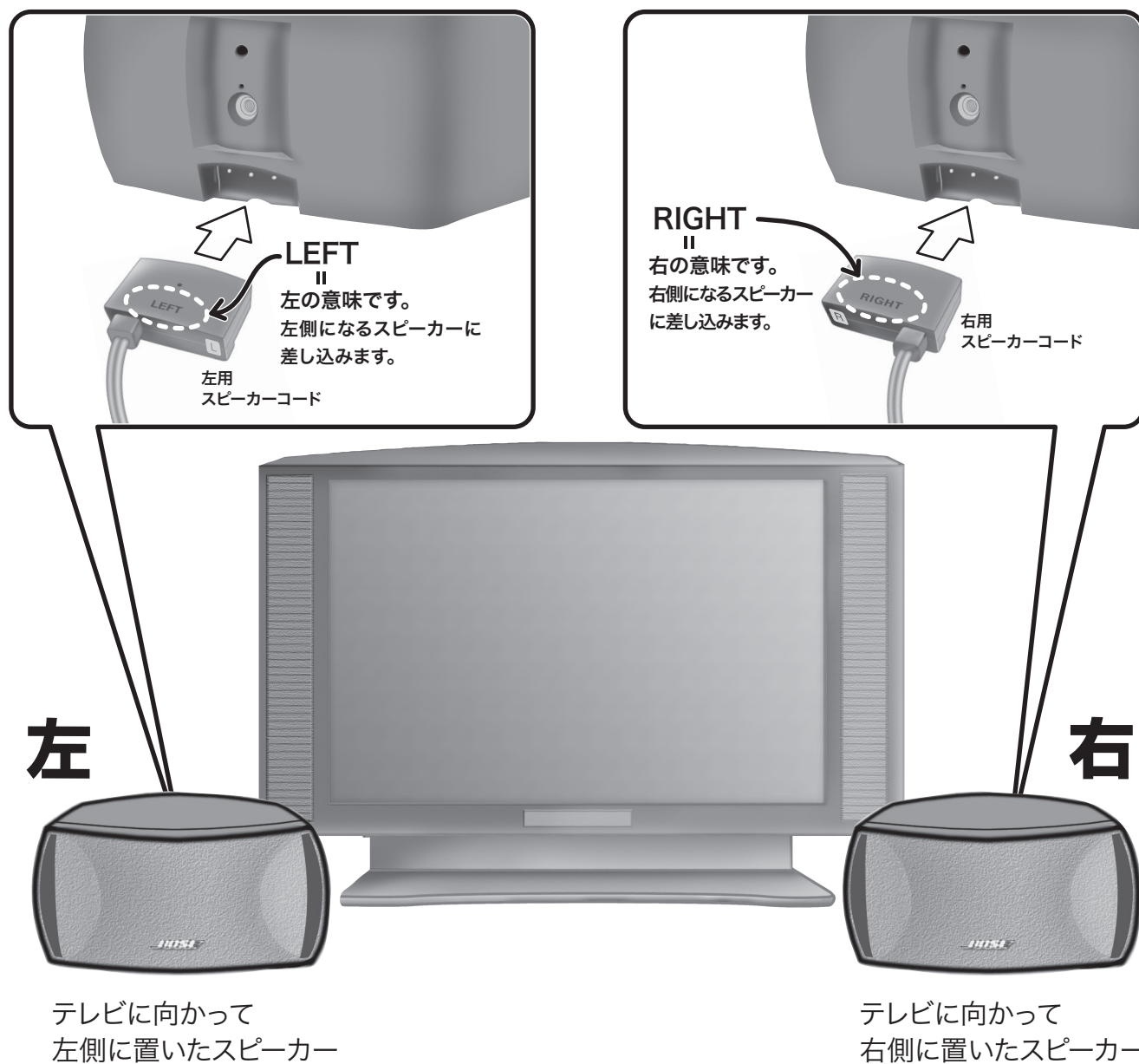
♪: プラグを固定するときにこのネジを締めると、接触不良などのトラブルを防ぐ事ができます。このプラグはしっかり差し込んでも、通常若干の隙間が生じます。また、ネジを締める時にドライバー（ネジ回し）を使うと破損する場合がありますので、必ず手で締めるようにしてください。このプラグは手で締める力で十分固定できるようになっています。ネジをゆるめる場合はドライバー（ネジ回し）を使用してもかまいません。

図9

インターフェースモジュールの接続

図10

スピーカーの接続

テレビに向かって
左側に置いたスピーカー

テレビに向かって
右側に置いたスピーカー

※テレビに向かって **左側にあるスピーカーに 左用のスピーカーコード** を、
右側にあるスピーカーに 右用のスピーカーコード をつないでください。

この左右を間違えると、サラウンドにならないばかりでなく、ステレオで聴くときにも、音像や音の定位などの本来の性能が全く発揮されません。

図11

テレビとの接続例 1

⚠ 注意： 全ての結線が終わるまで接続している機器の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

インターフェースモジュールに接続するテレビのアナログ音声信号について

通常テレビの音声出力信号はボリュームに連動していません。もし、テレビの音声出力信号を固定と可変 (連動) のどちらかに選択できる場合は固定を選択します。

テレビからの音声について

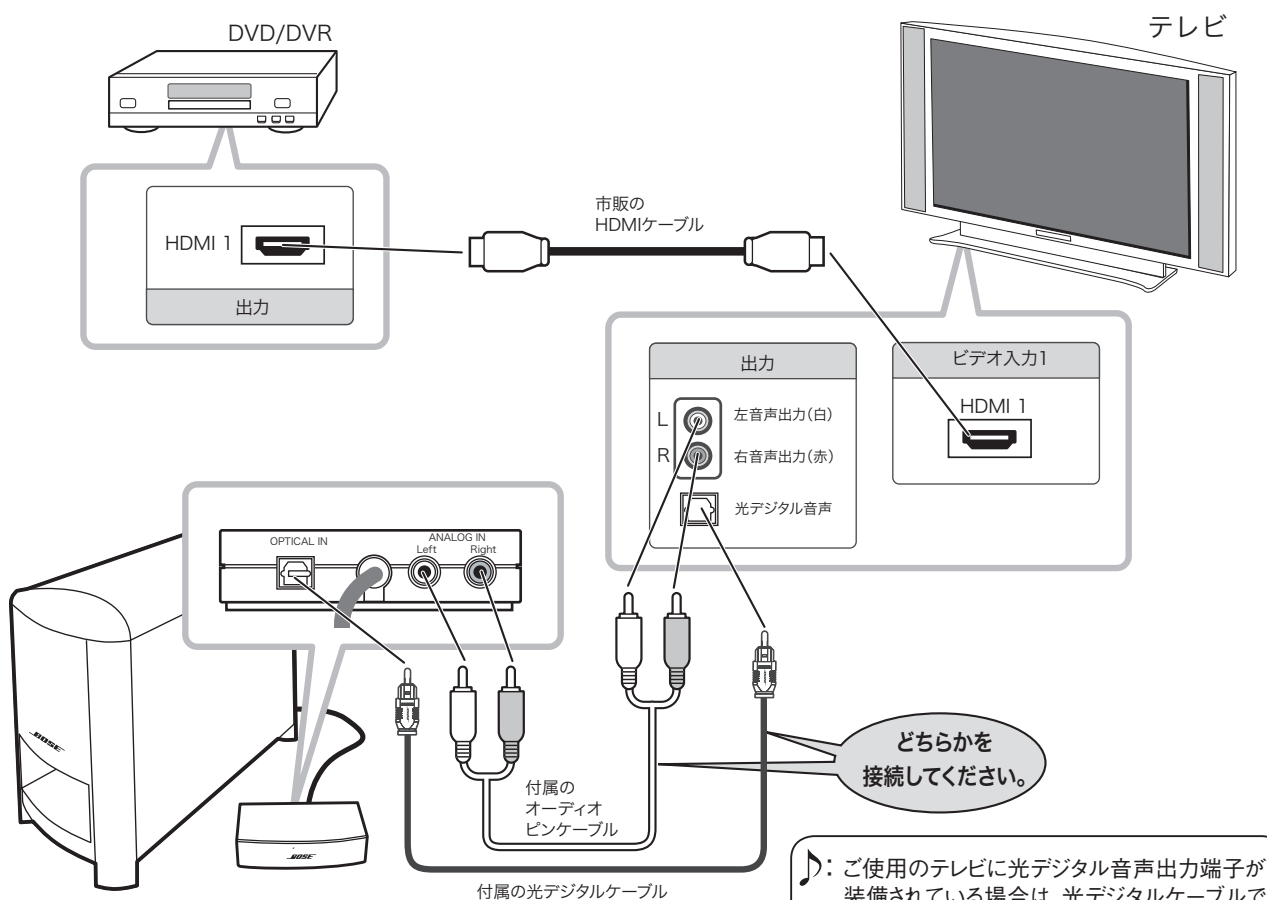
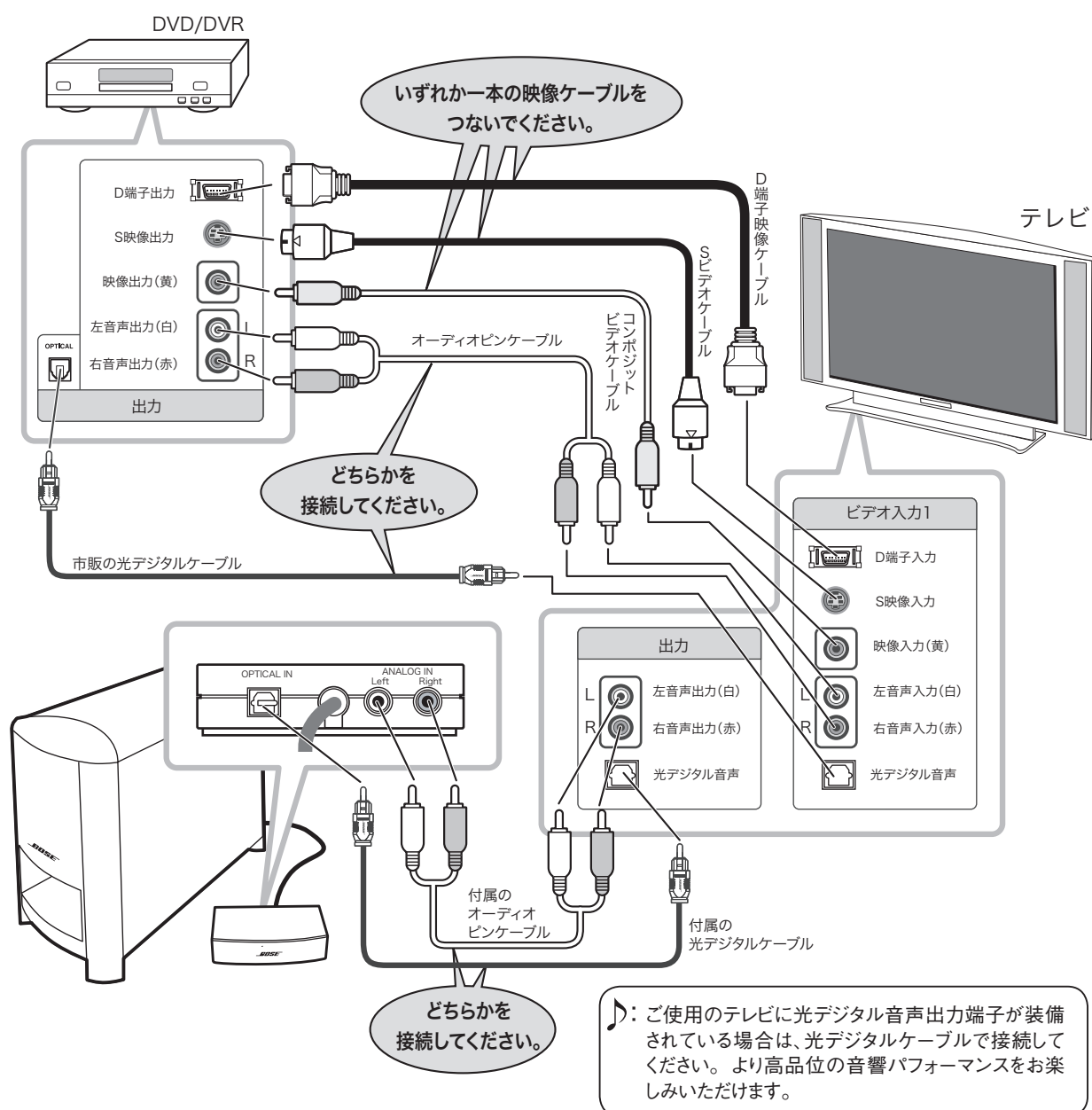
テレビの音声を CineMate® system で楽しむ場合、テレビに付いているスピーカーから音が出ないように設定します。テレビの設定で内蔵スピーカーを使用しないように設定してください。もし、テレビに内蔵スピーカーを切る設定がない場合は、テレビのボリュームを最小にしておきます。テレビの設定についての詳しい内容はテレビの取扱説明書をご覧ください。

♪: ご使用のテレビに光デジタル音声出力端子が装備されている場合は、光デジタルケーブルで接続してください。より高品位の音響パフォーマンスをお楽しみいただけます。

図12

テレビとの接続例 2

⚠ 注意： 全ての結線が終わるまで接続している機器の電源プラグはコンセントに差し込まないでください。

♪： ご使用のテレビに光デジタル音声出力端子が装備されている場合は、光デジタルケーブルで接続してください。より高品位の音響パフォーマンスをお楽しみいただけます。

- 接続するときのケーブルは必要に応じて市販のものをご用意ください。
- 図のテレビ、DVD/DVR の端子の部分はあくまでも一例です。お手持ちの機器により異なる場合があります。

最後に AC コンセントに接続する

はじめにアクースティマスモジュール背面の AC ケーブルジャックに付属の AC ケーブルを奥までしっかり差し込みます。そして、壁のコンセントに AC プラグを差し込んでください。

図13

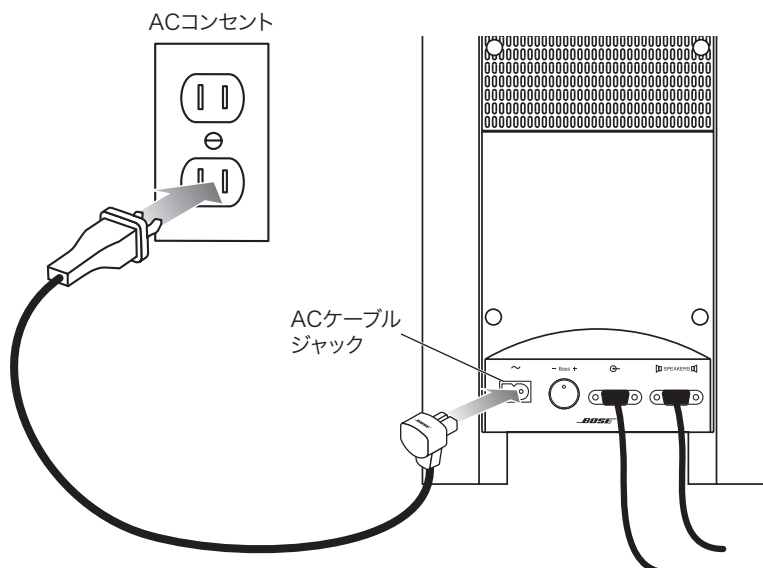
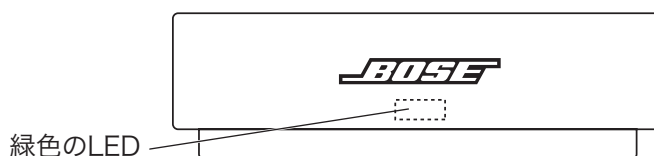
最後に AC ケーブルをコンセントに接続

⚠ 注意：全ての電子機器に対して信頼できるサージプロテクターを使用することをお薦めします。電圧変動とスパイクノイズは、電子部品が故障したり破損させる原因となることがあります。サージプロテクター等の機器については販売店にご相談ください。

図14

インターフェースモジュール／インジケーター

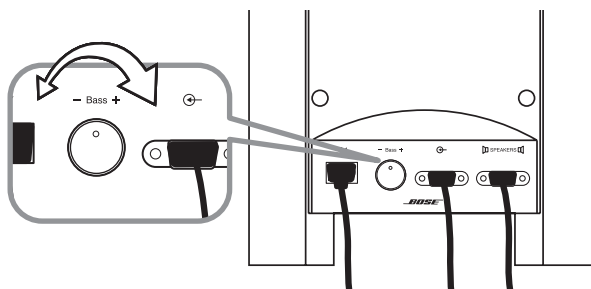
コンセントにプラグを接続して通電されると、緑色の LED が約 10 秒間点滅します。システムの電源を On すると、緑色の LED が点灯します。また、緑色の LED は、リモコンから信号を受信するたびに点滅します。

アクースティマスモジュールの低音調節について

アクースティマスモジュール背面の低音調節用つまみを使って、低音のボリュームを調節することができます。初期設定は中央になっています。

・つまみを時計方向に回すと低音の量が増加します

・つまみを反時計方向に回すと低音の量が減少します。

図15

アクースティマスモジュールの低音調節について

System Setup

CineMate® series II リモートコントローラーの使い方

このリモコンは CineMate® series II の電源の On/Off と音量調節を行うリモコンです。テレビや他の機器の操作は、それぞれの機器のリモコンをお使いください。

図16

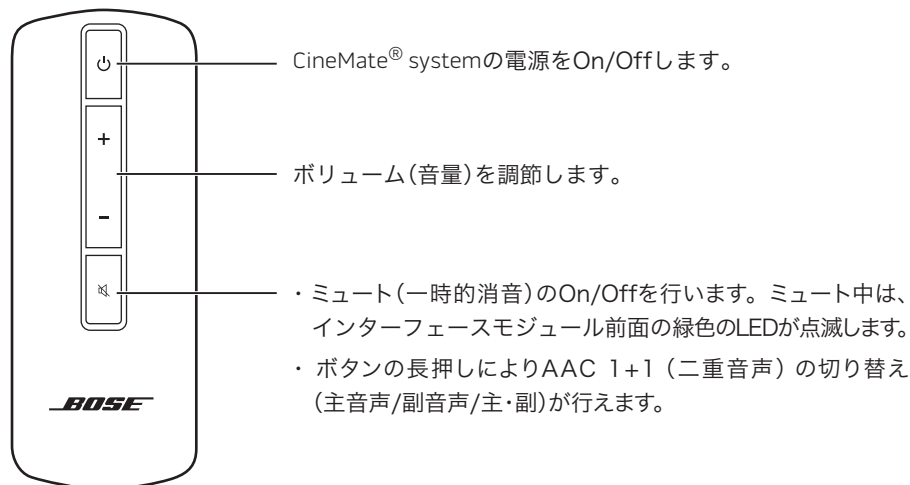
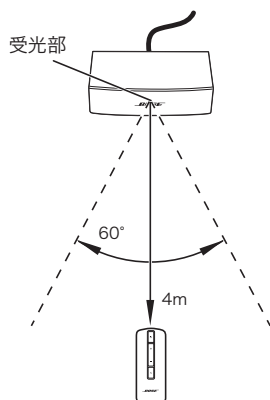
リモコンの使い方

リモコンの動作範囲

図17

リモコンの動作範囲

電池の交換時期について

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まり効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの電池を新しいものに交換してください。

⚠ 使用上の注意

- 本機の受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤作動させることがありますので、ご注意ください。
- リモコンと本機の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができないことがあります。

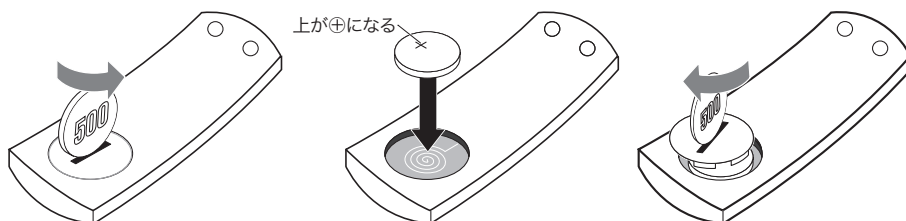
リモコンの電池の交換のしかた

図18

リモコンの電池交換

電池を交換する場合は電池の型番にご注意ください。

使用電池

3Vリチウムボタン電池
CR2032またはDL2032

⚠ 警告

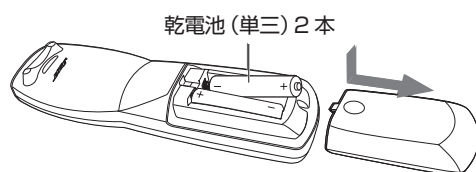
ボタン電池は正しい取り扱いを行わない場合、火災を起こしたり、化学物質で皮膚を侵される結果となることがあります。幼児には触れさせないように十分ご注意ください。また、分解や充電、焼却を行ったり100度以上の熱を与えないようにしてください。交換の際には指定の電池のみをご使用ください。異なる電池を使用した場合、火災や爆発の原因となることがあります。

CineMate® GS series II リモートコントローラーの使い方

リモコンの電池の入れかた

1. リモコンを裏返しにしてバッテリーカバーを下に押し込みながら引き出すように電池ボックスを開けます。
2. ボックス内の表示に合わせて乾電池(単三型2本)を入れてください。
3. スライドさせるようにしてバッテリーカバーを閉めてください。

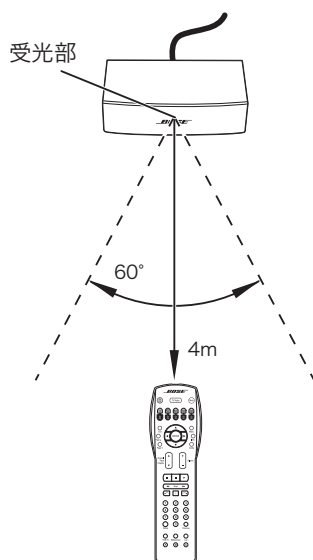
図19

リモコンの電池の入れ方

⚠ 電池についての注意

- 乾電池の⊕と⊖の向きを電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。
- 新しい乾電池と古い乾電池、または、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は絶対に充電しないでください。
- 長い間(1ヶ月以上)リモコンを使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。
- 液漏れを起こしたときは、ケース内についた液を手に直接触れないように注意しながらふき取り、新しい乾電池を入れてください。

リモコンの動作範囲について

図20

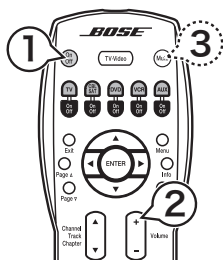
リモコンの動作範囲

⚠ 使用上の注意

- インターフェースモジュールの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。
- 本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますので、ご注意ください。
- リモコンとインターフェースモジュールの受光部の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができないことがあります。

電池の交換時期について

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの乾電池を2本とも新しい乾電池に交換してください。

Operation

基本操作

●テレビや外部機器の操作はそれぞれの機器付属のリモコンで行います。

1. **On/Off ボタン**を押して CineMate® GS series II の電源を入れます。
2. 音量を調整します。
3. ミュート（一時的消音）の On/Off を行います。ミュート中は、緑色の LED が点滅します。

外部の機器を付属のリモコンで操作するには

CineMate® GS series II 付属のリモコンに巻末のメーカーコード番号を設定することで、外部の機器を操作することができます。

例：テレビを操作できるように設定する場合

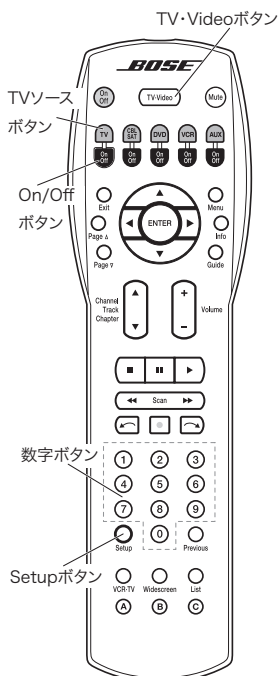
1. 巻末の設定コード表の製品カテゴリーの「TV」からテレビのメーカーコード番号を探します。同じメーカーのコード番号が複数ある場合は初めのものから順番に試していきます。
   ※他の機器の設定をする場合は、設定する機器それぞれのカテゴリーからメーカーコード番号を探してください。
2. 5 個のソースボタンが点灯するまで、**Setup ボタン**を長押しします。
3. **TV ソースボタン**を押します。TV ソースボタン以外のソースボタンが消灯します。
   ※ DVD/DVR の場合は、DVD ソースボタンを押します。
4. 1. で調べた 5 桁のメーカーコード番号をリモコンの数字ボタンを使って入力します。入力し終わると、**TV ソースボタン** (他の機器の場合はそれぞれのソースボタン) が素早く 2 回点滅して消灯します。
5. リモコンをテレビのリモコン信号受光部に向けて、TV ソースボタン下の **On/Off ボタン**を押してテレビの電源が On/Off できるか、**TV・Video ボタン**を押してテレビの入力が切り替えできるか、**Channel ボタン**や**数字ボタン**を押してテレビのチャンネルが切り替えられるか確認してください。このとき、これらの操作ができない場合は同じメーカーの次のコード番号を選んで、手順「**2**」からやり直してください。

♪ **注意**：設定を行っている間にリモコンの設定に関係ないボタンを押すか、無効のコード番号を入力すると、5 個のソースボタンが素早く 3 回点滅して、入力モードが終了します。このときは、手順「**2**」からやり直してください。

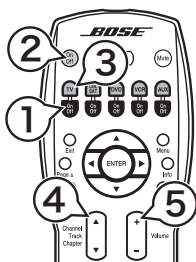
♪：現在リモコンでどの機器が操作できるか確認するには、リモコンの Enter ボタンまたは Mute ボタンを押します。操作できる機器のソースボタンが点滅します。

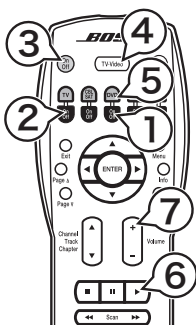
複合機器の場合

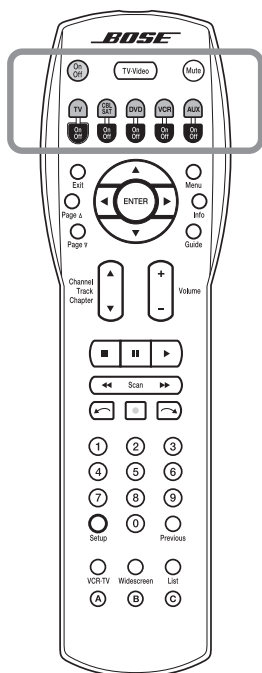
1 台で 2 つ以上の機能（TV と VCR、TV と DVD など）を持った機器の場合、初めに巻末のコード表の製品カテゴリーの「複合機器」から、メーカー別のコード番号を探してください。いずれか 1 つのソースボタンにコード番号を設定しておけば機能ごとにソースボタンで切り替えなくても操作できるようになります。例えば、TV と VCR の複合機器の場合は **TV ソースボタン**か、**VCR ソースボタン**のどちらか 1 つに設定するだけで TV と VCR 両方の操作ができるようになります。

「複合機器」のカテゴリーに適切なコード番号がない場合は、別々のカテゴリー（TV、CBL、SAT、DVD、VCR、DVR など）からコード番号を探して、それぞれの機能ごとに別々のソースボタンを使用して操作できるように設定してください。例えば、TV と VCR の複合機器の場合は、**TV ソースボタン**でテレビを操作できるように設定して、**VCR ソースボタン**で VCR の操作ができるように設定します。

リモコンの使い方（付属のリモコンで外部機器の操作）

♪ 注意：リモコンの送信部を操作したい外部の機器のリモコン信号受光部へ確実に向けて操作してください。また、リモコンの送信部と操作したい外部の機器のリモコン信号受光部の間に障害物がないことを確認してください。

テレビを見るとき

1. TV ソースボタン下の **On/Off ボタン**を押してテレビの電源を入れます。
2. **On/Off ボタン**を押して CineMate GS series II の電源を入れます。
3. **TV ソースボタン**を押してテレビの操作をできるようにします。
4. テレビのチャンネルを切り替えて、見たい番組に合わせます (22 ページ参照)。
5. 音量を調整します。

DVD/DVR を見るとき

1. DVD ソースボタン下の **On/Off ボタン**を押して DVD/DVR の電源を入れます。
2. TV ソースボタン下の **On/Off ボタン**を押してテレビの電源を入れます。
3. **On/Offボタン**を押して CineMate GS series II の電源を入れます。
4. **TV・Videoボタン**を押して、テレビの入力をDVD/DVRを接続した入力に切り替えます。
5. **DVD ソースボタン**を押して、DVD/DVR の操作をできるようにします。
6. DVD/DVR を操作して見たい番組を再生します (22 ページ参照)。
7. 音量を調整します。

CineMate® GS series IIの使い方

CineMate® GS series II の電源をOn/Offします。

♪： 5個のソースボタン、およびその下のOn/Offボタンを押してもCineMate® GS series II の電源をOn/Offすることはできません。

ミュート（一時的消音）の On/Off を行います。ミュート中は、インターフェースモジュール前面の緑色の LED が点滅します。

リモコンで外部の機器の操作を行う前に

リモコンで外部の機器を操作できるようにするには、必ず、リモコンの設定(18〜19ページ参照)を行ってください。設定すると、CineMate GS® series IIのリモコンで、テレビのチャンネルを切り替えたり、DVDプレーヤーを操作したりすることができるようになります。

テレビの外部入力を切り替えるときに押します※1。

TV…リモコンの設定（18 〜 19 ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのテレビのメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すと CineMate® GS series II のリモコンでテレビのチャンネル切替などの操作ができます※1。
On/Off…テレビの電源をOn/Offします※1。

♪ **注意**：このリモコンでコントロールできないテレビもあります。

CBL・SAT…リモコンの設定（18〜19ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのデジタルチューナーなどのメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すと CineMate® GS series II のリモコンでそれらの機器の操作ができます※1。
On/Off…上記の機器の電源をOn/Offします※1。

♪ **注意**：このリモコンでコントロールできないケーブルテレビホームターミナルやデジタルチューナーなどもあります。

DVD…リモコンの設定（18〜19ページ参照）でこのボタンを使ってお使いの DVD プレーヤーなどのメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すと CineMate® GS series II のリモコンでそれらの機器の操作ができます※1。
On/Off…上記の機器の電源をOn/Offします※1。

♪ **注意**：このリモコンでコントロールできないDVDプレーヤーやHDD/DVDレコーダーなどもあります。

VCR…リモコンの設定（18〜19ページ参照）でこのボタンを使ってお使いのビデオデッキのメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すと CineMate® GS series II のリモコンでそれらの機器の操作ができます※1。
On/Off…上記の機器の電源をOn/Offします※1。

♪ **注意**：このリモコンでコントロールできないビデオデッキもあります。

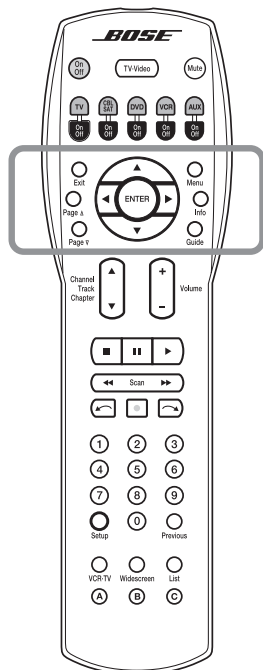
AUX…リモコンの設定（18〜19ページ参照）でこのボタンを使ってお使いの機器のメーカーコード番号をリモコン設定した場合、このボタンを押すと CineMate® GS series II のリモコンでその機器の操作ができます※1。
On/Off…上記の機器の電源をOn/Offします※1。

♪ **注意**：このリモコンでコントロールできない機器もあります。

※1 CineMate® GS series IIのリモコンでテレビやビデオデッキなどの外部機器を操作するには、リモコンにそれらの機器のコードを登録する必要があります（18〜19ページ参照）。

メニューおよびナビゲーション

♪： このページで説明されているボタンは一度に 1 つの機器しか操作できません。例えば、リモコンで TV が選択されているときに DVD プレーヤーやデジタルチューナーを操作することはできません。

♪： このページで説明されているボタンの機能はお使いの機器の種類・メーカーによって以下の説明と異なる機能として働く場合や、ボタンの機能自体が有効にならない場合があります。

Exit

現在選択されているソースのメニュー画面や電子番組表などを画面から消すときに使用します※2。

Page ▵

電子番組表が表示されている時に次のページを表示します※2。CBL-SATモードでのみ有効です。

Page ▿

電子番組表が表示されている時に前のページを表示します※2。CBL-SATモードでのみ有効です。

Menu

現在選択されているソースのメニュー画面を表示します※2。

Info

電子番組表などにおける詳細項目を表示します※2。

Guide

電子番組表を表示します※2。CBL-SATモードでのみ有効です。

他のボタンと一緒に使用して、各種設定や選択などを確定させるときに使用したり、選択項目にさらに詳細設定（サブメニュー）がある場合はサブメニューを表示します※2。

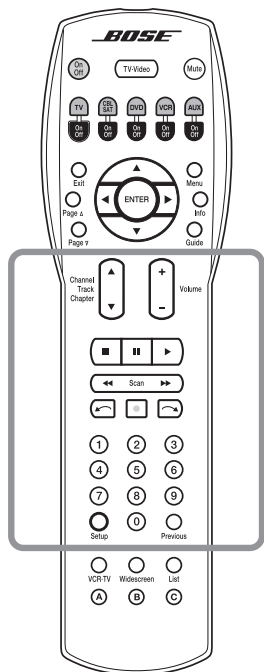
表示画面において上下左右の項目へ移動するときに使用します※2。

※2 お使いの外部機器にそれらの機能がある場合にのみ有効です。また、お使いの機器にそれらの機能があってもCineMate® GS serires II のリモコンで操作できない場合もあります。

再生機能など

注意： このページと次のページで説明されているボタンの多くは一度に一つの機器しか操作できません。例えばリモコンでCBL-SATが選択されている時はデジタルチューナーのチャンネル切り替えなどは可能ですが、DVDの再生やチャプターの送り・戻しなどは出来ません。この場合は必ず一度DVDソースボタンを押してから操作してください。

注意： このページと次のページで説明されているボタンの機能は、お使いの機器の種類・メーカーによっては以下の説明と異なる機能として働く場合や、ボタンの機能自体が有効にならない場合があります。

Channel Track Chapter

テレビやデジタルチューナーなどのチャンネルを選択したり、CD のトラックや DVD のチャプターを進めたり戻したりするときに使用します※。

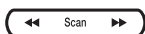
CineMate® GS series II システムのスピーカーからの音量を調整するときに使用します。
＋を押すと音量が上がります。ミュートが働いているときはこのボタンで解除します。
－を押すと音量が下がります。ミュートが働いているときはミュートが働いたままシステムの音量を下げます。

注意： Volumeボタンおよび Muteボタンはどのソースが選択されていても常にCineMate® GS series IIシステムのスピーカーからの音量を調整します。これらのボタンでテレビや外部機器のスピーカーの音量を調整することは出来ません。

DVD、CD、VCR、DVR の再生を停止します。

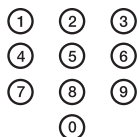
DVD、CD、VCR、DVR の再生をポーズ（一時停止）します。

DVD、CD、VCR、DVR の再生を始めます。

Scan

DVD のチャプターや CD のトラック、VCR、DVR を早戻し、早送りするときに使用します。

DVR などでインスタントリプレイを行うとき使用します※。

VCR や DVR などで録画を開始します。録画機能の付いている機器を CineMate® GS series II のリモコンのソースボタン（DVD、VCR など）で選んでから確実に押してください。

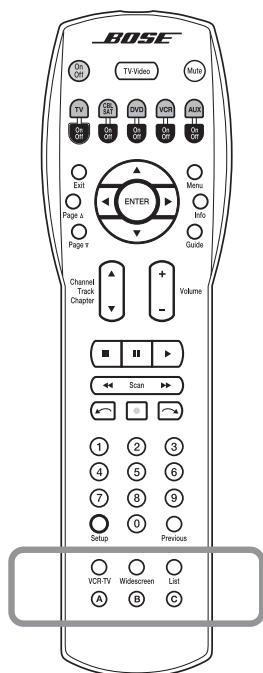
DVR などでクイックスキップまたは、現在放送中の番組に戻るときに使用します※。

リモコン設定時（18 ～ 19 ページ参照）メーカーのコード番号入力に使用します。
DVD のチャプターや CD のトラックを直接呼び出したり、テレビのチャンネルを選択したり、項目番号の入力などにも使用できます※。

Setup

リモコン設定時（18～19ページ参照）に使用します。

Previous

直前に見ていたチャンネルを呼び出せます※。

※ お使いの外部機器にそれらの機能がある場合にのみ有効です。また、お使いの機器にそれらの機能があってもCineMate® GS serires II のリモコンで操作できない場合もあります。

VCR·TV

VCRまたはVCR複合機器（ビデオ付テレビなど）使用時に映像の供給元をテレビとVCRの映像間を切り替えるときに使用します※。

Widescreen

画面サイズをワイドスクリーンと標準の間で切り替えるときに使用します※。

List

DVRなどで録画済番組のリストを表示します※。デジタルチューナーなどで番組情報を表示します※。

Ⓑ 長押し

AAC音声多重切替ボタン
地上デジタル/BSデジタル放送などのAAC音声多重信号が入力されたときに、1秒以上長押しする毎に主音声のみ再生→副音声のみ再生→主/副両方再生の切替が可能です※。

Ⓐ Ⓑ Ⓒ

ケーブルテレビ用オプションボタン
これらのボタンはケーブルテレビ特有の機能を操作するときに使用します※。

※ お使いの外部機器にそれらの機能がある場合にのみ有効です。また、お使いの機器にそれらの機能があってもCineMate® GS serires II のリモコンで操作できない場合もあります。

CineMate® systemのお手入れについて

・汚れやほこりは柔らかい布でから拭きしてください。

・汚れがひどい時は、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。

・シンナー、ベンジン、アルコール類などの揮発性の薬品やその他化学物質、クレンザーなどで製品をふかないでください。破損、変質、変色、塗料のはがれや表面に傷を付ける原因となります。またスプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

・どの開口部からも液体が入らない様にご注意ください。

・スピーカーのグリルの部分を掃除するときは、掃除機を使って傷つけないように弱い吸引力で注意深く吸い取ってください。

故障かな？と思ったら

問　　題	対　　応
電源が入らない	・ACプラグをコンセントから抜いて、約1分以上放置する。 ・アクースティマスモジュールにACケーブルが確実に差し込まれていることを確認する。 ・ACプラグをコンセントに差し込み直す。インターフェースモジュールの緑色のLEDが約10秒間点滅した後消灯することを確認する。 ・インターフェースモジュールがアクースティマスモジュール背面にしっかりと接続されていることを確認する。 ・リモコンのOn/Offボタンを確実に押す。
音声が出ない	・インターフェースモジュール前面の緑色のLEDが点灯してシステムの電源がOnしていることを確認する。 ・ボリュームを上げてみる。 ・テレビの音声にミュートがかかっている場合は、テレビのリモコンのMuteボタンを押しミュートを解除する。 ・インターフェースモジュールとスピーカーコードが、アクースティマスモジュール背面にしっかりと接続されていることを確認する。 ・スピーカーコードの接続をチェックする。 ・テレビの外部入力に接続されている機器が正しく選ばれているか確認する。 ・インターフェースモジュールとテレビ、テレビと外部の機器の接続を確認する。 ・テレビの音声出力端子から音声信号が出力される設定になっていることを確認する（設定については、テレビの取扱説明書を参照）。 ・テレビの音声出力が可変の場合は、固定に設定を替えるか、テレビの内蔵スピーカーから音が出ないように設定して、テレビのボリュームを上げる。 ・テレビ以外の機器の音声を選んでいる場合、その機器が音源となるソースを再生していることを確認する。 ・インターフェースモジュールに接続している光デジタル信号が、AAC、LPCMまたはAC-3ドルビーデジタルであること（DTSでないこと）を確認する（6ページ参照）。
音声は聞こえるが、映像が映らない	・テレビの電源が入っていることを確認する。 ・テレビの外部入力に接続されている機器が正しく選ばれているか確認する。

問　　題	対　　応
リモコンがきかない	・電池の入れ方を間違えていないか確認する。 ・リモコンの送信部をインターフェースモジュール、または、操作したい外部の機器のリモコン信号受光部へ確実に向ける。 ・リモコンとインターフェースモジュール、または、操作したい外部の機器のリモコン信号受光部の間に障害物がないことを確認する。 ・CineMate® GS series II のリモコンの場合、ソースボタンを押したときにボタンが点滅することを確認する。 ・リモコンの電源、音量、ミュートボタンを押したときにインターフェースモジュールの緑色のLEDが点滅することを確認する。 ・お使いの機器のメーカーコード番号で、より適切なものがある場合があるので別のコード番号をセットしてみる。
音が歪んでいる	・スピーカーコードに損傷したところが無いか、確実に接続されているかを確認する。
テレビから音が出る	・テレビの内蔵スピーカーから音が出ないように設定する。テレビには、テレビの各種設定を行う画面から内蔵スピーカーの使用、不使用を選ぶものと、テレビの背面に内蔵スピーカーOn/Offスイッチがあるもの、内蔵スピーカーをOffにできないものの3種類があるので、お使いのテレビの取扱説明書を参照して設定する。テレビの内蔵スピーカーをOffにできない機種の場合は、テレビのボリュームを最小にする。

お問い合わせ先

故障および修理のお問い合わせ先

ボーズ株式会社　サービスセンター　　お客様専用ナビダイヤル 0570−080−023
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-1124へおかけください。

〒206-0035 東京都多摩市唐木田1-53-9 唐木田センタービル

製品等のお問い合わせ先

ボーズ株式会社　ユーザーサポートセンター　お客様専用ナビダイヤル 0570−080−021
PHS、IP電話からは、Tel 03-5489-0955へおかけください。

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

Copyright and licenses

Device Codes

設定コード表

下記のメーカー製品であっても､機種によっては操作できないもの､または限られた機能しか操作できないものもあります。

TV
（テレビ）

メーカー	コード
アイワ	10701, 11904, 11914
パナソニック	11480, 10250, 11457, 10051, 10030, 11947, 11946, 11941, 11927, 11924, 11919, 11650, 11636, 11410, 11335, 11291, 11271, 10853, 10650, 10367, 10361, 10226, 10163, 10037
バイ・デザイン	11309, 11311
三洋	10047, 10208, 10361, 10370,10054, 10154, 11896,11667, 11585, 11208,11142, 11037, 10893,10799, 10704, 10370,10208, 10170, 10163,10159, 10108, 10009
富士通	10809, 10009, 10683, 10853, 12008
フナイ	10000, 10180, 10171, 10668, 10714, 11037, 11271, 11394, 11666, 11817, 11904, 11963
日立	11643, 10150, 10178, 11145, 10145, 12207, 11904, 11854, 11772, 11667, 11576, 11445, 11163, 11037, 10877, 10797, 10744, 10719, 10634, 10499, 10480, 10343, 10225, 10163, 10109, 10108, 10056, 10037, 10016
ビクター	10093, 10463, 10053, 10371, 10606, 10650, 10653, 10683, 10731, 11253, 11601, 11774, 11818, 11923, 12118, 12271, 10250
LG 電子	11423, 10017, 11265, 10178, 10030, 12182, 12057, 11842, 11768, 11663, 11637, 11305, 11178, 10856, 10829, 10714, 10700, 10698, 10556, 10370, 10361, 10163, 10109, 10056, 10037, 10009
三菱	11250, 10093, 10150, 10178, 10037, 10108, 10195, 10512, 10556, 10836, 10868, 11037, 11917

TV
(テレビ)

NEC
10053, 10030, 10009, 10056, 10170, 10497, 10704, 10882, 11398, 11797

オリオン
10236, 10463, 11463, 10037, 10443, 10556, 10655, 10714, 10880, 11037, 11911, 11929, 12001, 12005, 12007, 12032

フィリップス
10000, 11454, 10054, 10017, 11867, 11756, 11744, 11506, 11495, 11254, 11154, 10690, 10639, 10605, 10556, 10512, 10361, 10343, 10037, 10009

パイオニア
11457, 10166, 11636, 11398, 11260, 11247, 10866, 10760, 10679, 10512, 10486, 10370, 10361, 10287, 10163, 10109, 10037, 11556

ポラロイド
11523, 12121, 12120, 12002, 11991, 11826, 11766, 11720, 11687, 11645, 11498, 11341, 11328, 11327, 11326, 11316, 11314, 11286, 11276, 11262, 10865

サムスン
10812, 10054, 10060, 10702, 10178, 10030, 10814, 11060, 11235, 11249, 11312, 11395, 11458, 11584, 11619, 11630, 11903, 10766, 10650, 10644, 10618, 10587, 10556, 10519, 10370, 10208, 10163, 10056, 10037, 10009

シャープ
10818, 10093, 10053, 10653, 10688, 10851, 11193, 11586, 11602, 11659, 11917

ソニー
10810, 10000, 10037, 10834, 11317, 11505, 11651, 11685, 11791, 11825, 11904, 11925

東芝
11524, 10154, 10156, 11256, 11265, 10060, 11343, 11356, 11369, 11508, 11556, 11635, 11656, 11918, 11935, 11936, 11945, 11289, 11163, 11156, 11037, 10845, 10832, 10650, 10618, 10508, 10195, 10109, 10035

Device Codes

CBL
（ケーブルテレビ ホームターミナル）

メーカー	コード	メーカー	コード
パナソニック	01982	サイエンティフィック・アトランタ（SA）	01877, 00877, 00477, 00237, 01987
パイオニア	01877, 00877		

SAT
（デジタルチューナー 衛生チューナー など）

メーカー	コード	メーカー	コード
日立	01284, 02034	パイオニア	00329, 00853, 01308
Humax	01176, 01427, 01675, 01743, 01788, 01790, 01808, 01882, 01915, 02144, 02357	三洋	01626
		シャープ	02034
		ソニー	00639, 01639, 00847, 00853, 01558, 01640
ビクター	00775, 01170, 01775		
マスプロ	00173, 00713	東芝	00749, 01749, 00790, 01284
三菱	00749		
パナソニック	00247, 00701, 00847, 01304		

DVD
(DVDプレーヤー)

ブランド	コード
アイワ	20533, 20641, 21243
デノン	20490, 20634, 21634, 22258
フナイ	20675, 20695, 21268, 21334
日立	20573, 20664, 20713, 21247, 21748
ビクター	20503, 20539, 20558, 20623, 20867, 21164, 21275, 21550, 21597, 21602
三菱	21521, 20521, 20713
オンキョー	20503, 21769, 20627, 21627, 22120, 22147
パナソニック	20490, 20503, 20632, 20703, 21362, 21462, 21490, 21579, 21641, 21762, 21834
パイオニア	20525, 20571, 20142, 20631, 20632, 21460, 21512, 21531, 21571, 22279, 22442
サムスン	20490, 20573, 20744, 20199, 20820, 20899, 21044, 21075, 21635, 21748, 22107, 22489
シャープ	20630, 20675, 20713, 20752, 20869, 21256, 22250
ソニー	21533, 20533, 20864, 20772, 21033, 21070, 21431, 21432, 21433, 21516, 21536, 21633, 22132, 22138
東芝	20503, 21769, 20695, 21045, 21154, 21459, 21503, 21510, 21588, 21637, 22006, 22277, 22422
ヤマハ	20490, 20539, 20646, 20545, 20817, 22298

Device Codes

VCR
(ビデオデッキ)

メーカー	コード
アイワ	20032, 20037, 20000, 20307, 20348, 20352, 20742, 21137
フナイ	20000, 20593, 21593
日立	20081, 20240, 20000, 20042, 20046, 20593
ビクター	20067, 21162
三菱	20048, 20081, 20067, 20043, 20642, 20807
NEC	20037, 20104, 20067
パナソニック	21062, 20035, 20162, 20226, 20614, 20616, 20836, 20837, 21035, 21162, 21262, 21562
フィリップス	20739, 20035, 20081, 20563, 20593, 20618, 21081, 21181
パイオニア	20162, 20081, 20042, 20067, 21337
三洋	20048, 20240, 20104, 20067, 20046, 21137
シャープ	20048, 20807, 20848, 21137
ソニー	21232, 20032, 20035, 20000, 20106, 20636, 21032, 21972
東芝	20081, 20045, 20043, 20352, 20432, 20742, 20845, 21008, 21145, 21972, 21996

DVR
(HDD レコーダー)

メーカー	コード
パイオニア	21337
サムスン	20739
ソニー	20636, 21972
東芝	21008, 21972, 21996

複合機器
(TV/VCR)
ビデオ付テレビ

メーカー	コード
アイワ	10000, 10352, 10742, 11137, 11904, 11914
フナイ	10000, 10593,11904
日立	10000, 11904
ビクター	11923
三菱	10048, 10081, 10807, 10093, 10556, 11917
オリオン	10352, 10742, 11479, 10463, 11911, 11929
パナソニック	10035, 10162, 11035, 11162, 11262, 10250, 10051, 11919, 11924, 11927
三洋	10240
シャープ	10048, 10807, 10093, 11917
ソニー	11232, 10032, 10000, 11505, 11904, 11925
東芝	10352, 10432, 10742, 10845, 11145, 11918, 11936

複合機器
(TV/DVD)
DVD 付テレビ

メーカー	コード
フナイ	11268, 11963
日立	10713, 11247, 11037
パナソニック	11490, 11941
東芝	10695, 11524, 11635, 11935

複合機器
(TV/VCR/DVD)
ビデオ /DVD 付テレビ

メーカー	コード
フナイ	11334
パナソニック	11362, 11462, 11946, 11947
シャープ	10630
東芝	11045, 11945

複合機器
(VCR/DVD)
ビデオデッキ一体型
DVD プレーヤー

メーカー	コード
フナイ	20675, 20695, 20000, 21593
日立	20664, 20000
ビクター	20867, 21164, 21550, 21597, 21602
パナソニック	20490, 21579, 21762, 20162, 21562
三洋	20670, 20695, 20873, 20104
シャープ	20630, 20869, 20048, 20848, 21137
ソニー	20864, 21033, 21070, 21431, 21432, 21433
東芝	20503, 21045, 21510, 21637, 20045

仕様

●CineMate® series II スピーカーアレイ(防磁型)

外形寸法	200(W)×88(H)×136(D)mm
質量	1.2kg(1本)

●CineMate® GS series II ジェムストーンスピーカーアレイ(防磁型)

外形寸法	142(W)×66(H)×107(D)mm
質量	440g(1本)

●アクースティマスモジュール(非防磁型)

外形寸法	222(W)×364(H)×489(D)mm
質量	9.2kg(1本)
電源電圧	AC100V(50/60Hz)

●インターフェースモジュール(赤外線受光部)

音声入力	アナログ入力×1 光デジタル入力×1(光デジタル入力優先)
外形寸法	86(W)×30(H)×74(D)mm(突起部含む)

●付属品

・CineMate® series II
4ボタンリモコン×1(動作確認用電池取付済)

・CineMate® GS series II
ユニバーサルリモコン×1
乾電池　単3×2

・共通
専用スピーカーコード　(4.4m)×1セット
光デジタルケーブル　(2.0m)×1本
オーディオピンケーブル　(1.8m)×1本
スピーカーアレイ用ゴム足×8
アクースティマスモジュール用ゴム足×4
ACケーブル×1本

※仕様規格、外観および価格は、予告なく変更することがあります。

ボーズ株式会社 http://www.bose.co.jp/
〒150-0044 東京都渋谷区円山町28-3 渋谷YTビル

OM-1431-E
11･09 (B)